

全員協議会資料2

令和8年（2026年）9月18日

教育局 学務課

つくば市立幼稚園再編計画(案)

令和8年 月

つくば市教育委員会

目次

1.はじめに・・・再編計画に至る経緯

2.つくば市立幼稚園の再編に向けた現状把握

(1)園児数の現状

(2)運営体制の状況

(3)施設の状況

3.再編に向けた考え方

(1)つくば市立幼稚園の集約について

(2)つくば市立幼稚園の配置について

(3)再編スケジュール

4.つくば市立幼稚園が果たすべき役割のより一層の推進

5. 結び

1. はじめに・・・再編計画に至る経緯

つくば市では、つくばエクスプレス沿線開発に伴う人口の増加が続いていますが、未就学児の人口は、令和5年度をピークに減少に転じました。つくば市立幼稚園では、低年齢から長時間の保育ニーズの増加や令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化等により、幼稚園を取り巻く環境が大きく変化する中で、園児数が定員を大きく下回る状況であり、令和8年度においては、予想を上回る園児数の減少となりました。

市立幼稚園では、小規模な園であっても、幼児教育の専門的な教育を受けた教職員が、その特性をいかした教育を実践してきました。しかし、このままでは学級編成が困難な幼稚園が生じ、関わる子どもの数が限定され、行事や活動の幅も狭くなり、子どもたちが多様な友達と関わり、豊かな体験を積む機会が徐々に失われてしまうことを危惧していました。

そのため、令和7年9月に「つくば市立幼稚園のあり方検討委員会」を設置し、全6回の会議を経て、つくば市立幼稚園の現状と課題を整理し、「つくば市立幼稚園のあり方に関する提言」として、令和8年8月4日に委員会より下記のような主旨の提言の提出を受けました。

- ・質の高い集団教育を維持するために適正規模化と集約化を図ること
- ・集約化の実施にあたっては、円滑な移行に努めること
- ・集約化に伴い生み出された財源や人的なリソースについて、幼稚園の機能の拡充や質の向上のための基盤とすること
- ・つくば市立幼稚園の魅力発信と広報活動の強化に取り組むこと

この提言を踏まえ、つくば市立幼稚園が、今後もその機能と役割を果たし、質の高い幼児教育を維持するために、本再編計画を策定します。

2. つくば市立幼稚園の再編に向けた現状把握

(1) 園児数の現状

つくば市の未就学児(0～5歳)人口は、つくばエクスプレスの沿線開発により急激に増加していましたが、つくば市立幼稚園の園児数は、平成14年の荃崎町との合併以降年々減少しており(表1・図1)、令和8年度には、1学級では集団を維持することが困難なために、4歳児と5歳児を混合学級とした幼稚園が複数あります(表2)。

表1 図1 つくば市立幼稚園の園児数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
筑波	26	33	23	19	20	15	8
大穂	51	35	32	31	24	24	18
上郷	31	20	17	18	12	8	11
島名	46	43	45	45	40	39	44
桜南	44	25	23	26	29	22	10
桜	50	38	27	22	21	10	11
東	24	20	21	21	16	14	10
二の宮	49	41	31	24	24	28	30
手代木南	22	17	25	49	52	49	48
松代	94	89	63	45	44	30	21
竹園西	27	35	24	18	23	25	20
竹園東	34	23	25	27	28	34	24
吾妻	26	18	27	34	30	27	20
谷田部	162	148	132	115	100	89	80
荃崎				60	47	42	33
高崎	37	22	22				
岩崎	26	16	17				
計	749	623	554	554	510	456	388

※令和2年度～令和7年度は、5月1日時点の実績数。
令和8年度は、4月13日時点の実績数。

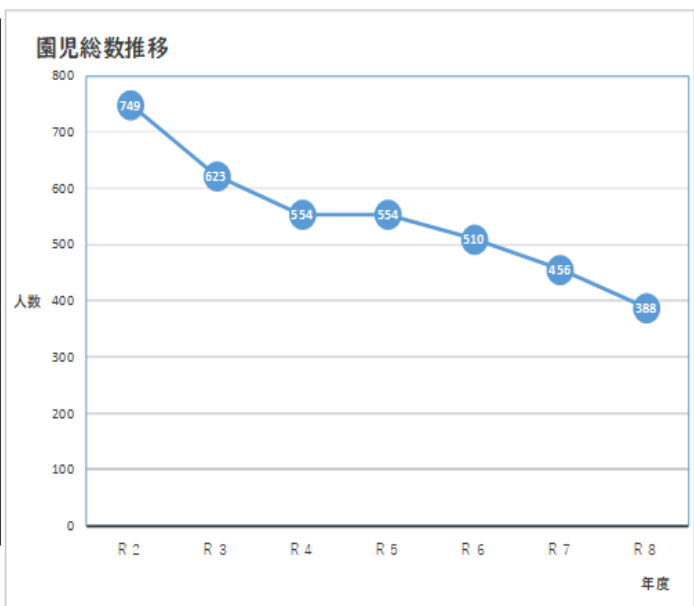


表2 つくば市立幼稚園 令和8年4月学級別園児数

令和8年4月13日現在

No.	園名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率	学級数
1	筑波		3	5	8	13%	1
2	大穂		5	13	18	30%	2
3	上郷		5	6	11	18%	1
4	島名		23	21	44	73%	2
5	桜南		5	5	10	17%	1
6	桜		5	6	11	18%	1
7	東		2	8	10	17%	1
8	二の宮		11	19	30	50%	2
9	手代木南	18	16	14	48	62%	3
10	松代		8	13	21	35%	2
11	竹園西		5	15	20	33%	2
12	竹園東		7	17	24	40%	2
13	吾妻		9	11	20	33%	2
14	谷田部		31	49	80	44%	4
15	荃崎	8	13	12	33	31%	3
	計	26	148	214	388	36%	28

※4歳児と5歳児で1学級(混合学級)

(2) 運営体制の状況

現在、手代木南、荃崎の2園で3歳児保育を実施し、令和7年度からは、一部の園で平日の預かり保育を実施しています。

全15園の運営体制は、各園に園長、教頭、教諭(保育主任や担任)の正職員を配置し園運営や保育にあたりとともに、会計年度任用職員の管理員等が施設の維持管理を行っています。また、一部の園では通園バスを導入しており、委託にて運行しています。

(3) 施設の状況

現在の幼稚園舎は、1970年代から1990年代に建築したものです。教室数は、以前は、4歳児5歳児それぞれ2学級以上の学級を編成していたため、全園で4部屋以上確保することができます(表3)。

耐震性に問題はありませんが、建築年数の経過により、多数の園において、小規模な修繕が必要な状況です。また、長寿命化工事は未実施であるため、適宜長寿命化工事を実施する必要があります。

表3 施設の状況

No.	園名	敷地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	教室数	主要棟 建築年	主要棟 の構造	備考
1	筑波	8,932	705	4	1992	S	
2	大穂	4,084	756	4	1992	W	
3	上郷	3,994	498	4	1988	W S	
4	島名	3,673	566	4	1975	S	
5	松代	2,601	586	4	1995	W	
6	手代木南	3,174	1,050	6	1980	R	
7	二の宮	3,010	917	6	1988	W	
8	東	3,010	582	4	1995	W	
9	桜南	3,000	1,034	6	1979 1980	R R	
10	桜	4,457	918	6	1977 1978	R S	
11	竹園東	3,010	805	6	1974	R	
12	竹園西	2,953	851	4	1989	R	
13	吾妻	3,451	1,027	6	1978	R	
14	谷田部	4,633	851	6	1988	R	谷田部南小学校内
15	荃崎	7,692	1,224	8	1980	R	荃崎第三小学校内

S: 鉄骨造

W 木造

R: 鉄筋コンクリート造

2011 年（平成 23 年）4 月、谷田部幼稚園が谷田部南小学校内へ移転

2017 年（平成 29 年）4 月、並木幼稚園が桜南幼稚園に統合

2023 年（令和 5 年）4 月、高崎幼稚園、岩崎幼稚園を統合し、荃崎幼稚園を開園

3. 再編に向けた考え方

つくば市立幼稚園の役割を果たすため、つくば市立幼稚園のあり方に関する提言に基づき、以下のとおり、再編の方針を示します。

(1) つくば市立幼稚園の集約について

令和8年4月時点の園児数に基づき、「各学年 6 名以上かつ全体で 18 名以上」(3 歳児保育実施園)の規模を継続的に保つことができるように、以下の点に配慮しながら、表 4 のとおり令和 10 年4月1日からつくば市立幼稚園を集約するとともに、3歳児保育や平日預かり保育の拡充を図ります。

ア 通園支援体制の確保

集約後の通園距離や地域の実情等を考慮し、集約前に通園バスを運行している幼稚園を基本に、引き続き通園支援を実施します。

イ 小学校とのつながりの維持

集約後の幼稚園区域内の小学校と連携し、就学先の小学校とのつながりが途絶えることのないよう、十分に配慮します。

ウ 多様な保育ニーズに対応する機能の拡充

3 歳児保育の導入や平日及び長期休業期間の預かり保育を拡充します。

エ 集約による教職員の配置

子どもたちの教育環境や支援体制を配慮した職員の配置を行います。

表4 つくば市立幼稚園 再編計画

No.	園名	第1 期(令和10年度)				第2 期以降(園児数の動向等により 実施時期を検討)
		集約化等	3 歳児 保育	預かり 保育	通園 バス	集約化等
1	筑波	筑波を大穂へ 集約	○	○	○	・園児数が減少した場合、近隣の幼児教育・保育施設の状況に鑑み、継続を検討する。 ・幼稚園型認定こども園化を検討する。 ・学校の空き教室の活用を検討する。
	大穂					
2	上郷	上郷を島名へ 集約	○	○	○	・園児数が減少した場合、近隣の幼児教育・保育施設の状況に鑑み、継続を検討する。 ・幼稚園型認定こども園化を検討する。 ・学校の空き教室の活用を検討する。
	島名					
3	桜南	桜南と 東を二 の宮へ集約	○	○	○	・園児数が減少した場合、近隣の幼児教育・保育施設の状況に鑑み、継続を検討する。 ・幼稚園型認定こども園化を検討する。 ・学校の空き教室の活用を検討する。
	東					
	二の宮					
4	手代木南		○	○		・将来、園児数が減少した場合、手代木南・松代幼稚園の集約を検討する。 ・既存の園の施設、または、学校の空き教室の活用を検討する。
5	松代			○		
6	竹園西	吾妻を竹園西 へ集約	○	○		・将来、園児数が減少した場合、桜・竹園東幼稚園との集約を検討する。 ・既存の竹園西幼稚園の施設、または、学校の空き教室の活用を検討する。
	吾妻					
7	桜	桜を竹園東へ 集約	○	○	○	・将来、園児数が減少した場合、竹園西・吾妻幼稚園との集約を検討する。 ・既存の竹園西幼稚園の施設、または、学校の空き教室の活用を検討する。
	竹園東					
8	谷田部		○	○	○	・将来、園児数が減少した場合、谷田部幼稚園・茎崎幼稚園の集約を検討する。 ・既存の谷田部幼稚園の施設の活用を検討する。
9	茎崎		○	○	○	

※原則として、令和8年4月時点の園児数が多い園を集約先とする。

※竹園西・吾妻の集約先は、敷地内の駐車スペースの拡張性から竹園西とする。

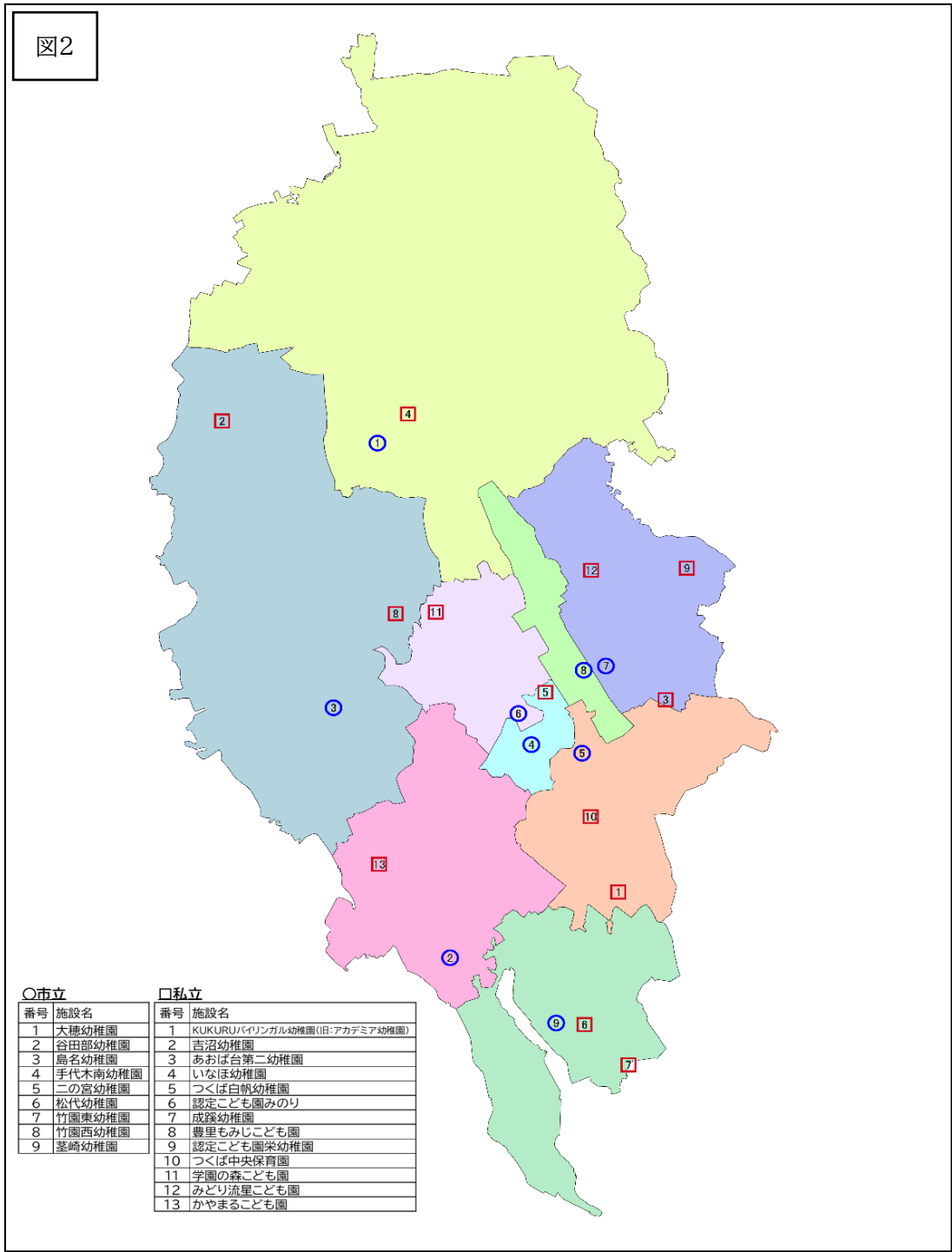
※令和9年度から大穂、竹園西で3歳児保育を開始する。

※松代での3歳児保育は、手代木南の3歳児保育の状況を見て検討する。

※令和10年度の再編後に、さらなる園児数の減少により、つくば市立幼稚園としての幼児教育施設の維持が難しい地域においては、幼稚園型認定こども園化への移行を検討する。

(2) つくば市立幼稚園の配置について

集約については、現在の園児数及び地域性を考慮して配置するよう努めました。再編後のつくば市立幼稚園の配置は、図2のとおりです。



(3)再編スケジュール

令和 7 年 9 月	つくば市立幼稚園のあり方検討委員会設置
令和 8 年 6 月～	保護者との意見交換会 (つくば市立幼稚園のあり方)
令和 8 年 8 月 4 日	つくば市立幼稚園のあり方に関する提言
令和 8 年 9 月	保護者との意見交換会(再編計画) 幼稚園再編に関する市民説明会
令和 8 年 9 月	つくば市立幼稚園再編計画策定
令和 8 年 10 月	令和 9 年度入園募集開始 令和 9 年度就園に関する保護者相談
令和 10 年 4 月	再編後の運営体制に移行

4.つくば市立幼稚園が果たすべき役割のより一層の推進

(1) 質の高い幼児教育の保障

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。友達との多様な関わりや豊かな体験を通して、主体性や社会性を育む教育を行います。

(2) 多様な幼児へのきめ細かな支援

特別な支援を必要とする幼児や外国籍の幼児など、一人一人の教育的ニーズに応じ、関係機関と連携しながらきめ細かな支援を行います。

(3) 幼児教育と小学校教育の連携

幼児期の学びを小学校にスムーズにつなぐため、小学校や保育施設と連携し、つくば市立幼稚園が拠点となり、地域で育ちを支えます。

(4) 地域の子育て支援の拠点

園児だけでなく、未就園児や保護者への支援も進め、地域全体の子育て環境を充実させます。

なお、幼児教育の環境の向上を目指し、今後も以下のような検討を進めていきます。

- ・ 園舎の老朽化については、学校の空き教室の活用を検討する。
- ・ 休園となる施設については、公立幼稚園の需要を見据えた上で利活用を検討する。

5. 結び

本再編計画は、令和8年8月に受理した「つくば市立幼稚園のあり方に関する提言」を踏まえ、同年9月に策定しました。本計画に基づき、現在のつくば市立幼稚園の課題を解決し、今後も質の高い幼児教育を受けられる場を目指します。